

繊維の
いろは

物性試験

JIS L 0849 JIS L 0848

第6回

公益財団法人 日本繊維検査協会 試験検査統括部 岡田 恭子

摩擦試験 (JIS L 0849)

摩擦試験とは、染色した繊維製品が着用中の摩擦により、他の衣料品やバック等に移染する恐れがないかどうかを調べるために行う試験です。

摩擦試験機を用いて規定の方法に基づいて、試験片と摩擦用白綿布とを互いに摩擦し、摩擦用白綿布の着色の程度を汚染用グレースケールと比較し判定します。

〈試験方法〉

試験方法は、摩擦試験機Ⅰ型（クロックメーター）と、摩擦試験機Ⅱ型（学振方）があります。

摩擦試験機Ⅰ型は、試験片を試験台の耐水研磨紙上に、摩擦用白



摩擦堅牢度試験

綿布を摩擦子の先端にそれぞれ取り付け、9 N（約900 g）の荷重で、試験片10センチの間を10秒間に平均的に10回往復摩擦します。

摩擦試験機Ⅱ型は、試験片を試験片台の上に取り付け、摩擦用綿布を摩擦子の先端にそれぞれ取り付け、2 N（約200 g）の荷重で試験片の中央部10センチの間を毎分30回往復の速度で100回往復摩擦します。

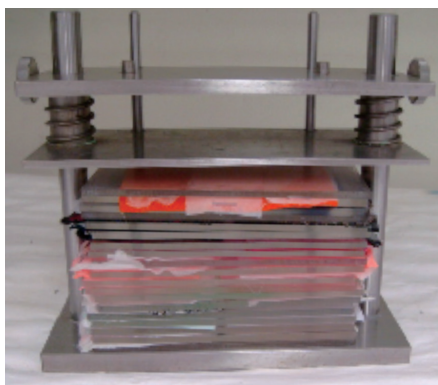
汗試験 (JIS L 0848)

試験片は、たて及びよこ方向に各々2枚ずつとり、乾燥試験と湿润試験（白綿布を水でぬらし100%の湿润状態にする）があります。判定は汚染用グレースケールを用い、視感法により1級から5級まで判定します。

汗試験とは、染色した繊維製品が汗で濡れた状態で長時間着用した場合に、他の衣料品等に汚染する恐れがないかどうかを調べるために行う試験です。

〈試験方法〉

試験方法は、採取した試験片に綿と絹（またはナイロン）の白布を縫い付けたものを、酸性人工汗液またはアルカリ性人工汗液に、浴比50対1で常温にて30分間浸漬



汗堅牢度試験

させます。その後、余分な試験液をしごきとり汗試験機に取り付けます。これに約125kPa（約50 N）の荷重を加え、37℃±2℃の乾燥機中に4時間保持し、その後乾燥させます。

判定は変退色用グレースケール、汚染用グレースケールを用い、試験片を乾燥させた後に試験片の変退色、白布の汚染を視感法により1級から5級まで判定します。